



HARA MUSEUM ARC

青空は、太陽の反対側にある

原美術館／原六郎コレクション

第2期（秋冬季）

2023年9月9日（土）－ 2024年1月8日（月・祝）

会場：原美術館 ARC

2021年の「原美術館」（品川）と「ハラ ミュージアム アーク」（渋谷）の統合後、リニューアルした「原美術館 ARC」では、作品制作や鑑賞のあり方の一端を表す言葉を当館の豊かな自然環境に求めた展覧会を通年で企画しています。3年目となる本年度は、「青空は、太陽の反対側にある」と題し、「原美術館コレクション」（現代美術）と「原六郎コレクション」（東洋古美術）を春夏季と秋冬季の2期に分け展覧いたします。



【図版1】

■本展第2期の見どころ

- ① 当時の“女性アーティスト”の枠に囚われず、彫刻表現を拡張した久保田成子や、美術の伝統的価値に異を唱えた「反芸術」の作家など、当館が40余年の歳月をかけ収集した現代美術家の作品を紹介します。
- ② 「光悦本」と呼ばれる希少な古活字本、『謡本』を、第1期とは巻を変えて展示します（初公開）。
- ③ 閉館した原美術館より移設した奈良美智《My Drawing Room》。第2期期間中はその作品内部の全作品が貸し出しのため、作家によるインスタレーションを特別公開します（2023年9月9日から2024年1月8日まで）。

2023年12月2日（土）講演会「Meet the Artist：奈良美智」開催！

詳細は美術館ウェブサイトにてお知らせいたします。

■展覧会概要

雲ひとつない晴れた日に**原美術館 ARC**を訪れて最初に目にするもの——それは**大きな青空**です。青空と山々の深緑や紅葉、そして青空と端正な黒色の磯崎新建築とのコントラストは、恐らくここでしか見るこのできない感動の光景。しかしよく見ると、青空の青さにはわずかに濃淡があります。輝く太陽の周りは少し白っぽく、太陽から離れるにつれ青さが増してゆく。思い描く**理想の青い空は太陽の反対側**にあります。

本展では、「**青空は、太陽の反対側にある**」をキーフレーズに、自身の理想を求めて当時の美術的・社会的動向に背を向けた**荒川修作**や**久保田成子**、**ギルバート&ジョージ**や**ヨーゼフ ボイス**など、国内外の作家の表現を展観します。

まず、現代美術ギャラリーA、B、Cでは、**常識や慣習、既存の価値観に抗う**ことで、または**視点を変える**ことで独自の地平を切り開く作家や、声高ではなくとも**社会や美術の潮流に疑問を呈する**作家、そして**自身の心に深く潜る**ことで新たな表現を浮上させる作家の作品をご覧ください。

一方、特別展示室 観海庵には、鎖国の江戸期に西洋絵画や科学に傾倒した**司馬江漢**や、「朦朧体」と揶揄されながらも墨線を否定し、独自の表現を切り開いた**横山大観**の作品を展示します。また、中国とは異なり、象嵌の施された高麗独自の青磁、**『青磁鳥形水注』**を第1期に引き続き公開。白と黒の土を用いた羽の表現や、羽毛を表す精緻な線、とろりとかかる青磁釉の美しさが見どころです。さらに、写生を重んじた円山応挙と与謝蕪村から学んだ**呉春**による双幅の展示に加え、**本阿弥光悦**の書体を基にした希少な古活字本**『光悦謡本』**を帖を替えながら展示いたします。

輝く太陽にあえて背を向け、順光に映し出される鮮やかな青空と原美術館 ARC をどうぞご堪能ください。

■出品作家（予定）

第2期

現代美術：カレル アペル、荒川修作、アルマン、アルマンド、アンディ ウォーホル、クレス オルデンバーク、工藤哲巳、久保田成子、クリスト、ヴィレム デ クーニング、篠原有司男、セザール、蜷川実花、エルネスト ネット、森村泰昌、ロバート メイプルソープなど

古美術：司馬江漢『富嶽図』、横山大観『海辺曙色図』、『光悦謡本』、『青磁鳥型水注』、『武蔵野図屏風』など

第1期（2023年3月24日から9月4日まで）

現代美術：艾未未、安藤正子、ヨルク インメンドルフ、アンディ ウォーホル、河原温、リー・キット、ギルバート&ジョージ、スラシ クソンウォン、佐藤時啓、佐藤雅晴、ジョージ シーガル、須田悦弘、ルフィーノ タマヨ、ジャン デュビュッフェ、奈良美智、ナム ジュン バイク、ゲオルク ハゼリッツ、A.R. ペンク、ヨーゼフ ボイス、張洵、やなぎみわ、横尾忠則、ジム ランビー、ロイ リキテンシュタイン、ジャン＝ピエール レイノーなど

古美術：『青磁下無花瓶』（国宝）、『青磁袴腰香炉』、『青磁鳥形水注』、『光悦謡本』、狩野派『花鳥図屏風』、狩野派『層嶺瀑布図』、『紫陽花時絵重箱』、本阿弥光悦『蝶下絵和歌巻（古今和歌集春歌上）』など

プレス向け特別ガイドツアー開催 2023年9月11日（月）11：00～11：40

本展担当学芸員が展覧会の見どころなどを解説いたします。参加ご希望の方は前日までにご連絡ください。

■通年展示作品

アニッシュ カプーア『虚空』、草間彌生『ミラールーム（かぼちゃ）』、宮島達男『時の連鎖』、森村泰昌『輪舞（双子）』、束芋『真夜中の海』、鈴木康広『日本列島のベンチ』など

■屋外作品

一昨年閉館した[原美術館（東京）](#)から4点の屋外作品を移設しました。併せてお楽しみください。

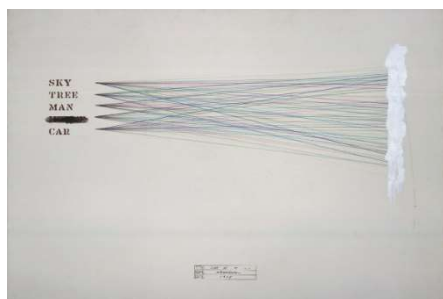
飯田善國『風の息吹き』（1980 年）、関根伸夫『空相』（1980 年）、多田美波『明暗 No.2』（1980 年）、イサム ノグチ『物見台』（1959-81 年）

■広報用図版

現代美術【第2期】



【図版2】



【図版3】



【図版4】



【図版5】

古美術【第2期】



【図版6】



【図版7】



【図版8】



【図版9】

通年展示



【図版10】

奈良美智「My Drawing Room」内全作品貸出しのため、
第2期は作家による特別展示になります。
(2023年9月9日から2024年1月8日まで)



【図版11】



【図版12】



【図13】

■広報用図版クレジット

【図版1】篠原有司男《シマウマとライオンのイチゴ合戦》1992年 カンヴァスにアクリル絵具 210.0 x 360.0cm ©Ushio + Noriko Shinohara

【図版2】蛭川実花《PLANT A TREE》2011年 Cプリント 48.5 x 72.8cm ©mika ninagawa

【図版3】荒川修作《それを見よ No.3》1968年 綿カンヴァスにアクリル絵具、フェルトペン 124.5 x 183.0cm
© 2023 Estate of Madeline Gins. Reproduced with permission of the Estate of Madeline Gins.

【図版4】久保田成子《デュシャンピアナ：自転車の車輪 1, 2, 3》1990年 3インチ液晶モニター、自転車の車輪、モーター、木の
スツール、パワーAC、シングルチャンネルビデオ 各148 x 64 x 39.5cm
© 2023 Estate of Shigeo Kubota/ Licensed by VAGA at Artists Rights Society (ARS)

【図版5】クリスト《アンブレラ、日本とアメリカ合衆国のジョイントプロジェクト》1986年 紙に鉛筆、木炭、布、クレヨン、パス
テル 67.3 x 78.2 x 4.3cm © ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 G3248

【図版6】司馬江漢『富嶽図』江戸時代 絹本着色 142.2 x 81.1cm

【図版7】横山大観『海辺曙色図』明治時代 絹本着色 127.2 x 40.8cm

【図版8】『武蔵野図屏風』(部分) 江戸時代 (17世紀前期) 紙本金地著色 172.2 x 360.0cm

【図版9】『青磁鳥形水注』高麗時代 (10~14世紀) 磁器

【図版10】奈良美智《My Drawing Room》2004/2021年 312.0 x 200.5 x 448.0cm ©Yoshitomo Nara

※《My Drawing Room》内全作品貸出しのため、第2期は作家による特別展示になります。

【図版11】鈴木康広《日本列島のベンチ》2014/2021年 ミクストメディア ©Yasuhiro Suzuki

【図版12】森村泰昌《輪舞 (双子)》1994/2021年 ミクストメディア ©Yasumasa Morimura

【図版13】草間彌生《ミラールーム (かぼちゃ)》1991/1992年 ミクストメディア 本体200.0 x 200.0 x 200.0 cm ©Yayoi Kusama

※【図版5】クリスト《アンブレラ、日本とアメリカ合衆国のジョイントプロジェクト》、【図版13】草間彌生《ミラールーム (かぼ
ちゃ)》の図版掲載については、当館への掲載依頼後、別途各媒体からの著作権使用許可申請が必要です。掲載をご希望の場合は、ま
ずは当館までご連絡ください。

■原美術館 ARC について



【図版 14】ジャン＝ミシェル オトニエル
「Kokoro」 2009 年



【図版 15】特別展示室 観海庵 内観



【図版 16】原美術館 ARC 外観



【図版 17】開架式収蔵庫



オリジナル商品

原美術館 ARC は、現代美術の専門館である原美術館（東京・品川。1979-2021）と別館ハラ ミュージアム アーク（群馬・渋川。1988 年開館）の活動を集約し、2021 年 4 月に始動した美術館です。青い空と深い緑に抱かれた豊かな環境での美術体験を特長としています。

当館の収蔵作品「原美術館コレクション」は、運営母体である公益財団法人アルカンシエール美術財団理事長の原俊夫が財団設立時から収集した 1950 年代以降の世界の現代美術コレクションです。抽象表現主義やポップアートなど、20 世紀美術を彩った巨匠の絵画や彫刻から現在のアートシーンで活躍する作家の写真や映像作品まで、多種多様な表現を網羅しています。

明治の実業家・原六郎（1842－1933）が収集した近世日本絵画、工芸、中国美術などを「原六郎コレクション」として所蔵しています。なかでも中国陶磁の真髄を伝える国宝「青磁下蕪花瓶」や浮世絵美人図の先駆けとなる重要文化財「縄暖簾図屏風」、円山応挙の大作画卷「淀川兩岸図巻」、永徳ほか狩野一門による「三井寺旧日光院客殿障壁画」が代表作です。

建築は、「建築界のノーベル賞」と称されるプリツカー賞を受賞した磯崎新が手がけました。榛名山の峰々と呼応するピラミッド型の屋根が印象的なギャラリー A と、前庭に向かって両翼を広げるギャラリー B、C は、現代美術作品の映える端正な空間です。一方、滋賀県・三井寺（園城寺）の旧日光院客殿の書院造に想を得た「観海庵」は、内部のいたるところに名工の技が光る静謐な和風空間。広々とした庭ではアンディ ウォーホルやオラファー エリアソンなど、国内外のアーティストによる屋外作品を鑑賞しながらの散策もお楽しみいただけます。

開架式収蔵庫に保管している一部の原美術館コレクションは、学芸員や評論家、教育・研究機関に所属する方など主に美術の専門家を対象に作品の鑑賞・調査が可能となっています。また、原美術館 ARC メンバーの方には、年数回の庫内のガイドツアーを行っています。

大きな窓と高い天井が心地よいカフェ ダールでは、群馬県産の新鮮な食材を活かした特製サンドイッチやパスタなどのお食事や、丁寧にハンドドリップで淹れたコーヒーなどをご用意。展示作品をイメージしてスタッフが考案した「イメージケーキ」もお召し上がりいただけます。

ザ・ミュージアムショップでは、当店オリジナル商品をはじめ、展覧会カタログや関連書籍、アーティストグッズ、デザイン小物やアクセサリなど、現代美術を暮らしに取り入れ、お楽しみいただける商品を取り揃えています。日本の伝統技術を感じさせるモダンな商品や、群馬県ゆかりの作家をご紹介しますなど、お土産やギフト、旅

【図版 14】【図版 16】撮影：木暮伸也 【図版 15】【図版 17】撮影：斎藤さだむ

の話題を探すにもぴったりの場所です。

■開催要項

展覧会名 「青空は、太陽の反対側にある：原美術館／原六郎コレクション」

会期 第2期（秋冬季） 2023年9月9日（土）－2024年1月8日（月・祝）

（第1期（春夏季） 2023年3月24日（金）－9月3日（日）終了しました）*特別展示室・観海庵は会期中展示替えがあります

主催・会場 原美術館 ARC

開館時間 9:30 am－4:30 pm（入館は4:00 pmまで）

休館日 木曜日（祝日を除く、12月28日と1月4日は開館）、1月1日 *2024年1月9日～3月中旬まで冬季休館

入館料 一般1,800円（1,500）、大高生1,000円（700円）、小中生800円（500円）

*カッコ内は前売りオンライン料金（日にち指定） https://e-tix.jp/haramuseum_arc/

*原美術館 ARC メンバーシップ会員は無料、学期中の土曜日は群馬県内の小中学生の入館無料、その他各種割引あり。

住所 〒377-0027 群馬県渋川市金井 2855-1

Tel: 0279-24-6585 E-mail: arc@haramuseum.or.jp ウェブサイト: <https://www.haramuseum.or.jp>

■交通案内

・JR 上越／吾妻線「渋川駅」（上越／北陸新幹線利用の場合は「高崎駅」で上越／吾妻線に乗り換え）より、関越交通バス「伊香保温泉」または「伊香保榛名口」行き（3番のりば）にて約15分、「グリーン牧場前」下車、徒歩7分。

または「渋川駅」よりタクシーで約10分。

・お車の場合、関越自動車道「渋川・伊香保 I.C.」より8 km、約15分。（無料駐車場50台、大型バス駐車場2台）

【JR 乗換案内例】※2023年7月現在。ご利用の際は時刻表をお確かめください。

上越・北陸新幹線（平日・土休日とも）

<はくたか553号>

東京駅 7:52 発→高崎駅 8:42 着／8:53 発 [吾妻線 大前行] →渋川駅 9:19 着／9:25 発 関越交通バス [伊香保榛名口行] →グリーン牧場前 9:40 着

<とき317号>

東京駅 10:40 発→高崎駅 11:31 着／11:44 発 [吾妻線 長野原草津口行] →渋川駅 12:08 着／12:14 発 関越交通バス [伊香保温泉行] →グリーン牧場前 12:29 着

特急「草津・四万」（草津・四万31号は土休日のみ運行）

<草津・四万31号>

上野駅 9:00 発→渋川駅 10:38 着／10:55 発 関越交通バス [伊香保温泉行] グリーン牧場前 11:10 着

<草津・四万1号>

上野駅 10:00 発→渋川駅 11:36 着／11:42 発 関越交通バス [伊香保榛名口行] グリーン牧場前 11:53 着

<草津・四万3号>

上野駅 12:10 発→渋川駅 13:50 着／13:55 発 関越交通バス [伊香保榛名口行] グリーン牧場前 14:06 着

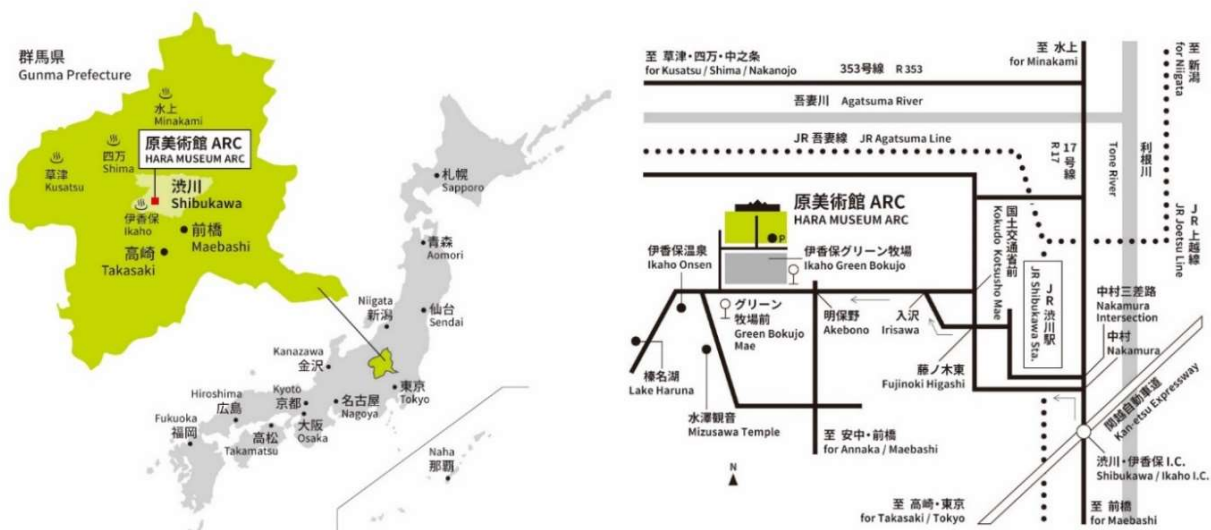
【高速バス／JRバス上州ゆめぐり号】

新宿駅⇔渋川駅・伊香保・草津温泉 *詳細はJRバス関東のサイトでご確認ください。

<http://time.jrbuskanto.co.jp/bk03010.html>

【ヘリコプター】

東京ヘリポート→伊香保温泉長峰ヘリポート 約 35 分、伊香保温泉長峰ヘリポートから当館までタクシーで片道約 10 分＊詳細は 各ヘリコプターチャーター会社へお問い合わせください。



【メンバーシッププログラム】

原美術館 ARC では、アートをもっと身近に楽しみたい方のためのメンバーシッププログラムを設けています。会員証のご提示で無料入館やカフェ、ミュージアムショップでの割引が適用される他、開架式収蔵庫ツアーなどのメンバー限定イベントへのご招待も。メンバーとして当館の活動をサポートしつつ、さまざまな角度からアートを体験する場にご参加いただくことが目的のプログラムです。

詳細は WEB ページをご参照ください <https://www.haramuseum.or.jp/jp/membership/>

【開催中のイベント】

SHOP@CAFE 画狂人・井上文太

開催場所：原美術館 ARC 内 カフェ ダール、ザ・ミュージアムショップ

開催期間：2023 年 7 月 7 日（金）－2024 年 1 月 8 日（月祝）

営業時間：カフェ 10:00 am - 4:30 pm、ショップ 9:30 am - 4:30 pm ＊休業日は美術館の休館日に準ずる

展覧会「青空は、太陽の反対側にある」担当学芸員：坪内

取材・図版提供など広報に関するお問い合わせ：原美術館 ARC 広報 山川、野田

E-mail: press@haramuseum.or.jp Tel: 0279-24-6585 Fax: 0279-24-0449 Twitter: @haramuseum_arc Instagram: haramuseumarc